

国語 - 6 (第2学年) 好きなシリーズ作品を見付け、楽しんだり想像を広げたりして読む事例

【学習活動の概要】

1 単元名 シリーズのお話を楽しもう	
2 単元の目標 (1) 物語に描かれている世界に浸りながら、大好きな作品や場面を見付けようとする事ができる。 (2) シリーズの物語を選んで読んだり、登場人物の行動や会話に着目したりして、想像を広げながら楽しんで読むことができる。 (3) 文の中における主語と述語との関係に注意して読むことができる。 (国語への関心・意欲・態度) (読むこと) (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	
3 評価規準 【国語への関心・意欲・態度】 ・シリーズの物語について、自分の大好きな作品、お気に入りの場面などを見付けて楽しんで読もうとしている。 【読む能力】 ・自分がおもしろいと思った場面について、登場人物の行動や会話に着目し、想像を広げて読んでいる。 ・物語を楽しんで読むために、シリーズの作品を読んで好きな作品を選んでいる。 【言語についての知識・理解・技能】 ・文の中における主語と述語との関係に注意して文章を読んでいる。	
4 教材 『ふたりはともだち』他、同シリーズ作品(アーノルド・ローベル作・絵)	
5 主な学習活動(単元の指導計画(全7時間))	
	学 習 活 動
第一次	『ふたりはともだち』所収の作品の読み聞かせを聞き、おもしろいところ、好きなところを述べ合う。 作品が、がまくんとかえるくんが登場するシリーズであることを知り、学習課題を設定する。 自分の大好きなお話や場面を見付けよう。
第二次	『ふたりはともだち』所収の「おてがみ」の読み聞かせを聞く。 「おてがみ」の好きな場面を考えながら、繰り返し読む。 ・読み聞かせを聞いて感じた、おもしろいところや好きなところを確かめながら通読する。 ・「おてがみ」と、かえるくんががまくんのためにこっそり優しい行動をする「ぼうし」などとを比べて読み、似ていて好きな場面やおもしろいと思った人物の行動を発表し合う。
第三次	並行読書してきたシリーズの他の作品について、自分の好きなお話を選んで、好きな場面とその理由を述べ合う。
	言語活動に関する指導上の留意点
	・自分のこれまでの経験や読書体験と関連付けて感想を述べるようにする。 ・自分の「大好き」「お気に入り」が見付かるように意識付けする。 ・『ふたりはともだち』他、同シリーズの作品を学級文庫に準備する。 ・「おてがみ」のおもしろいところ、好きなところがどこなのかを確かめ、なぜそこが好きなのかについて、 場面の様子 挿絵 登場人物の行動描写 シリーズの他の作品のストーリーとの関わり などを手掛かりに考えながら読む。 ・「ほっとする」「心が温かくなる」など自分の感想を表すのにふさわしい感想を述べる言葉を用いることができるようにする。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領・国語の第1学年及び第2学年「C 読むこと」の指導事項「ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」と指導事項「カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。」とを取り上げて指導するものである。

その際、「C 読むこと」の言語活動例「ア 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。」を具体化し、シリーズの物語を楽しんで読む言語活動を通して指導することにより、指導の効果を高めた事例である。

【言語活動の充実の工夫】

「シリーズの物語」を読むことの特徴を生かした言語活動

本事例では、指導のねらいを実現するために、シリーズの物語を読むという言語活動を位置付けている。「シリーズ」を読むことは、例えば、次のような読む能力を育成する上で効果的である。

「想像を広げながら読む」こと

シリーズ作品は、相互に関連付けて作られている場合が多い。シリーズを通して描かれる主人公の行動や、ストーリーのつながりに気付くことによって、解釈の手掛かりが多様に得られるため、一つの作品だけを精読する以上に、場面の様子を想像を広げて読むことが可能となる。本事例では、次のような解釈が見られた。

「おてがみ」でかえるくんが用事を思い出して一度家に帰ったのは、がまくんにお手紙を書くためだと思う。「ぼうし」でも、かえるくんはがまくんのために内緒で親切にしてあげているから。

「おてがみ」の最初のシーンでかえるくんががまくんに会いに来たのは、シリーズの前の作品「すいえい」で、がまくんを怒らせてしまったので、心配になって様子を見に来たからだと思う。

「おてがみ」で「しんあいなるがまがえるくんへ」と手紙を書いたのは、仲直りしたかったからだと思う。

「登場人物の行動」に注意して読むこと

シリーズでは、主人公をはじめとして共通の登場人物が各作品に描かれている場合が多い。シリーズを通して読むことで、同一人物の行動に着目しやすくなる。また、低学年でシリーズに親しむことによって、中学年では、シリーズを通して描かれる「登場人物の性格」に着目して読むことができるようになる。さらに高学年では、シリーズを通して密接に描かれる人物の相互関係に注意して読むことができるようになる。

「本や文章を選んで読む」こと

本や文章を選んで読む場合の観点の一つとして、同一シリーズの作品を選んで読むことが挙げられる。同一シリーズの作品は、相互に結び付きが強いため、選んで読む際の対象としやすい。また、シリーズで読むという行為を言語活動として組織化して取り上げることは、児童の日常の読書生活につながる、読む能力を育成する上でも有効である。

シリーズ作品を読むことを位置付けた言語活動を行う場合の留意点

シリーズ作品を読むことを言語活動として位置付ける場合は、シリーズ作品の本を確保することが課題となる。その際、学校図書館や地域の図書館との連携を図り、同一シリーズの本を複数冊準備するなどの工夫が必要となる。